

2.コンクリート標準示方書[施工編]2002年制定 土木学会「抜粋」

10.6.3 鉄筋の組立

(3)鉄筋のかぶりを正しく保つために必要な間隔にスペーサを配置しなければならない。スペーサの選定と配置にあたっては、使用個所の条件、スペーサの固定方法および鉄筋の質量、作業荷重を考慮する必要がある。

(4)型枠に接するスペーサはモルタル製あるいはコンクリート製を使用することを原則とする。

(3)(4)……一般によく用いられるスペーサには、モルタル製、コンクリート製、鋼製、プラスチック製、セラミック製等があり、使用される場所、環境に応じて適切な物を選ぶ必要がある。……
……従来の鋼製スペーサは、型枠と接する部分に若干の防せい処理が施されているが、これをコンクリート表面に露出させると、この部分から錆び始め、やがて内部鉄筋の腐食の原因となり防食上の弱点になり、外観も悪くなる。したがって、型枠と接するスペーサは、モルタル製あるいはコンクリート製のスペーサを用いることを原則とした。……

……プラスチック製スペーサは、コンクリートとの熱膨張率の相違、付着および耐荷力不足等の問題があり、また、ステンレス製等の耐食性金属でできたスペーサは、異種金属間の接触腐食の問題など不明確な点があるので、注意をする。

スペーサの数は、はり、床版等で1.当り4個程度、ウェブ、壁および柱で1.当り2～4個程度を配するのが一般的である。……